

令和5年度 全国学力・学習状況調査
(令和5年4月18日 実施)

高石市立小・中学校

調査結果概要

令和5年10月
高石市教育委員会

調査の概要

- (1) 調査の目的
- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - イ 各学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ウ 以上のような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (2) 調査内容
- I…教科に関する調査 **小学校：国語・算数** **中学校：国語・数学・英語**
 - II…アンケート調査 **児童生徒対象・学校対象**
- (3) 調査対象
- 小学校第6学年**（高石市：7校 児童数：454人）
 - 中学校第3学年**（高石市：3校 生徒数：479人）
- (4) 調査実施日
- 令和5年4月18日（火）**
- (5) 調査結果の取扱いについて
- 本調査は、競争を目的とするものではなく、すべての子どもたちの学力や学習状況を把握し分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としている。
 - 本調査により測定できる学力は**特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものである。**

平均正答率からわかる本市小・中学校別結果の概要について

小学校	平均正答率 (%)		
	高石市 (公立)	大阪府 (公立)	全国 (公立)
国語	66	66	67.2
算数	64	62	62.5

中学校	平均正答率 (%)		
	高石市 (公立)	大阪府 (公立)	全国 (公立)
国語	66	68	69.8
数学	50	50	51.0
英語	42	45	45.6

上表の本市平均正答率の数値データは、市内の全小学校・全中学校のデータに基づいて表しています。

※平成29年度より、国からの結果公表が整数値のため、本市及び大阪府の平均正答率は整数で表しています。

- ◇ 小学校では、国語は、大阪府平均と同じですが、全国平均を下回っています。算数は、大阪府平均・全国平均をともに上回っています。
- ◇ 中学校では、国語、英語いずれも、全国・大阪府平均ともに下回っています。数学は、大阪府平均と同じですが、全国平均を下回っています。

学力調査結果 小学校

平均正答率 (%)

	高石市	大阪府	全国	対府差	対国差
国語	66	66	67.2	0.0	-1.2
算数	64	62	62.5	2.0	1.5

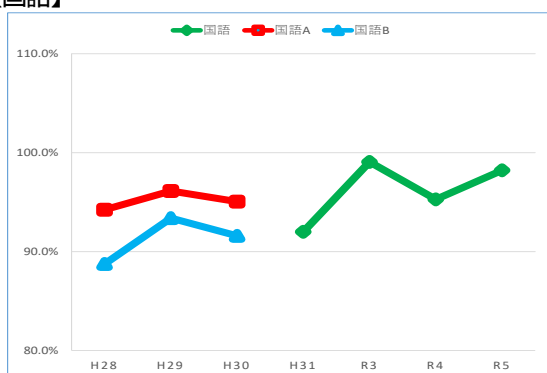
無解答率 (%)

	高石市	大阪府	全国	対府差	対国差
国語	3.1	5.1	4.8	-2.0	-1.8
算数	2.1	3.5	3.4	-1.4	-1.3

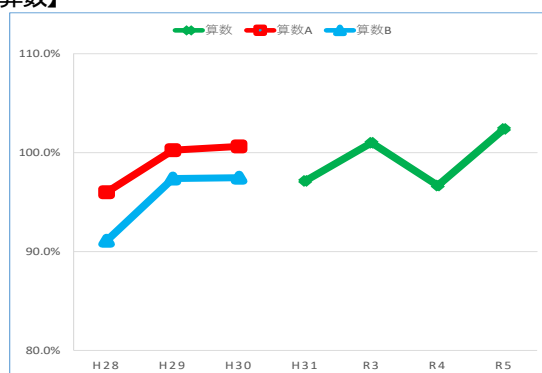
【参考】対全国比の経年比較

(平成 31 年度より A・B 区分がなくなりました)

【国語】



【算数】



※全国の平均正答率を 100 としたときの各教科の平均正答率の推移

各教科の状況

○小学校国語

平均正答率は 66% で、全国を 1.2 ポイント下回った。

文章からわかることを記述する問題については、全国平均を上回っており、成果がみられる。

その一方で「言葉等の知識や技能」及び、思考力、判断力、表現力を問う問題の「書くこと」に課題が見られる。記録カードやグラフなどをもとにして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができていない児童が多い。

(課題となる問題例を P. 12 に掲載しております)

○小学校算数

平均正答率は 64% で、全国を 1.5 ポイント上回った。

基本的な知識・技能を問われる問題については、全国平均を上回っており、成果がみられる。

その一方で図形を構成する要素に着目し、図形の意味や性質について理解したり、図形の意味や性質をもとに面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述したりすることができていない児童が多い。

(課題となる問題例を P. 13 に掲載しております)

小学校国語	領域	市	府	国	府比	国比
	言葉等の知識や技能	68.6	71.0	71.2	96.6	96.3
	情報の扱い方	63.8	62.6	63.4	101.9	100.6
	話すこと・聞くこと	72.6	70.9	72.6	102.4	100.0
	書くこと	22.2	24.2	26.7	91.7	83.1
	読むこと	71.2	69.2	71.2	102.9	100.0

小学校算数	領域	市	府	国	府比	国比
	数と計算	69.1	66.8	67.3	103.4	102.7
	図形	49.2	48.4	48.2	101.7	102.1
	変化と関係	72.5	70.8	70.9	102.4	102.3
	データの活用	65.4	63.8	65.5	102.5	99.8

学力調査結果 中学校

(※前回の英語の調査は平成 31 年度)

平均正答率 (%)

	高石市	大阪府	全国	対府差	対国差
国語	66	68	69.8	-2.0	-3.8
数学	50	50	51.0	0.0	-1.0
英語	42	45	45.6	-3.0	-3.6

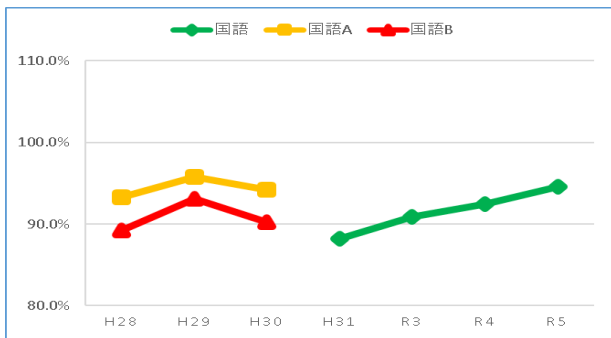
無解答率 (%)

	高石市	大阪府	全国	対府差	対国差
国語	5.6	5.2	4.6	0.4	1.0
数学	10.2	11	9.6	-0.8	0.6
英語	7.6	6.4	5.7	1.2	1.9

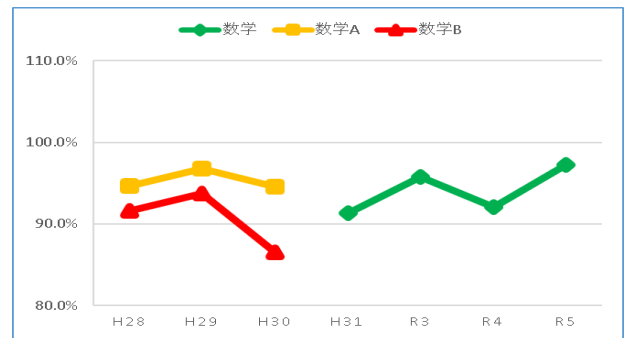
【参考】対全国比の経年比較

(平成 31 年度より A・B 区分がなくなりました)

【国語】



【数学】



※全国の平均正答率を 100 としたときの各教科の平均正答率の推移

各教科の状況

○中学校国語

平均正答率は 66% で、全国を 3.8 ポイント下回った。全国との差は、改善傾向にあるが、「書くこと」にまだまだ課題が見られる。自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書くことができていない生徒が多い。

(課題となる問題例を P. 14 に掲載しております)

中学校国語	領域	市	府	国	府比	国比
	言葉等の知識や技能	66	67.6	68.5	97.6	96.4
	話すこと・聞くこと	78	79.5	82.2	98.1	94.9
	書くこと	59.6	62.1	63.2	96.0	94.3
	読むこと	58.3	60.8	63.7	95.9	91.5

○中学校数学

平均正答率は 50% で、全国を 1.0 ポイント下回った。図形の領域は全国と同等の水準であったが、特に関数の領域に課題が見られる。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できていない生徒が多い。

(課題となる問題例を P. 15 に掲載しております)

中学校数学	領域	市	府	国	府比	国比
	数と式	61.5	63.2	63.0	97.3	97.6
	図形	33.5	33.4	33.2	100.3	100.9
	関数	49.1	49.5	51.2	99.2	95.9
	データの活用	46.2	45.0	48.5	102.7	95.3

○中学校英語

平均正答率は 42% で、全国を 3.6 ポイント下回った。「読むこと」と「書くこと」に課題が見られる。「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができていない生徒が多い。また、自分の考えを英語で表現することについてもできていない生徒が多い。

(課題となる問題例を P. 16 に掲載しております)

中学校英語	領域	市	府	国	府比	国比
	聞くこと	56.4	57.4	58.4	98.3	96.6
	読むこと	46.7	50.2	51.2	93.0	91.2
	書くこと	20.6	24.8	23.4	83.1	88.0

質問紙調査の結果概要

※令和2年度は調査が実施されず
単位は、%

	質問項目		高石市				全国			
			R1	R3	R4	R5	R1	R3	R4	R5
①	朝食を毎日食べている	小	92.7	91.9	91.3	91.1	95.3	94.9	94.4	93.9
		中	90.9	90.5	89.7	88.0	93.1	92.8	91.9	91.2
②	自分にはよいところがある	小	72.9	76.5	72.6	82.9	81.2	76.9	79.3	83.5
		中	62.1	69.3	70.3	74.2	74.1	76.2	78.5	80.0
③	将来の夢や目標をもっている	小	82.4	80.0	81.4	79.2	83.8	80.3	79.8	81.5
		中	66.1	67.2	67.4	65.0	70.5	68.6	67.3	66.3
④	人の役に立つ人間になりたいと思う	小	93.7	93.1	92.6	92.7	95.2	95.5	95.1	95.9
		中	91.1	93.9	96.2	92.0	94.3	95.0	95.0	94.6
⑤	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う	小	97.8	96.2	96.1	97.8	97.1	96.8	96.8	96.9
		中	86.8	93.8	96.2	92.8	95.1	95.9	96.4	95.5
⑥	学校の授業以外の読書時間が30分以下（月～金）	小	64.9	66.4	69.4	65.6	60.2	62.5	63.6	62.6
		中	84.0	78.9	77.0	73.8	73.0	71.0	72.6	71.0
⑦	家庭学習の時間が30分以下（月～金）	小	17.9	20.0	20.4	23.9	9.9	13.0	14.7	16.0
		中	18.9	15.7	19.9	22.1	12.8	9.9	13.4	15.9
⑧	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	小	64.8	71.9	63.3	67.4	71.5	74.0	71.1	70.7
		中	45.6	60.1	57.9	54.4	50.4	63.5	58.5	55.0
⑨	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	小	*	94.2	92.4	93.8	*	94.5	95.4	95.1
		中	*	90.1	91.4	92.6	*	93.2	92.6	93.3
⑩	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	小	66.0	75.4	75.7	80.0	74.1	78.8	80.1	81.8
		中	60.5	70.1	74.8	75.5	72.8	77.8	78.7	79.7
⑪	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	小	74.4	75.2	73.8	79.3	77.7	78.2	77.3	78.8
		中	65.5	79.6	77.5	78.6	74.8	81.0	79.2	79.2
⑫	各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	小	*	68.8	69.7	75.6	*	67.2	72.2	74.4
		中	*	56.5	70.0	75.4	*	59.5	67.4	69.1
⑬	自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	小	54.8	65.7	63.1	66.1	62.5	63.5	65.4	63.7
		中	47.2	52.2	65.1	66.6	55.8	62.0	63.3	62.1
⑭	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	小	90.7	93.2	92.8	95.2	91.2	91.8	91.8	92.8
		中	79.3	88.8	90.8	89.4	88.0	88.7	89.7	88.7
⑮	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	小	91.3	91.4	92.6	93.7	92.5	92.6	93.3	93.3
		中	62.5	72.9	74.3	73.8	76.2	74.6	76.5	75.8

※ 表における「*」は、その年度、調査がなかったことを示します。

傾向について

①の項目では、小中学校とも全国を下回り、前回に比べ数値も微減しております。朝食の大切さを伝えるため、食育等の取組みを進めてまいります。

②の項目では、小・中学校とも全国を下回りましたが、数値は伸びています。

③・④の項目では、小中学校とも全国を下回りました。今後ともさまざまな教育活動を通してキャリア教育を進めるとともに、人との関わりを大切に、自己有用感の向上を図る取組みを進めてまいります。

⑤の項目では、小学校では数値が伸び、全国を上回りました。取組みの成果がみられます。引き続きいじめは絶対にゆるされないという教育を進めてまいります。

⑩・⑪・⑫・⑬の項目では、⑩・⑪の項目については、小中学校とも全国より低い傾向にありますが、小・中学校とも数値は伸びています。

また、⑫・⑬の項目については、全国を上回るなど改善が見られます。今後とも引き続き各学校において、主体的・対話的で深い学びの実現につながる授業づくりを進めていきます。

⑭の項目では、昨年度に引き続き、小中学校ともに全国の数値を上回りました。

⑮の項目では、小学校は全国の数値を上回りました。

調査結果から

本年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析・考察した結果、学力調査において、小学校国語の平均正答率については、全国平均に少しとどかないものの、府平均とは同値でありました。中学校国語においては、全国平均を下回る結果となりましたが、対国差は縮まっております。また、小学校算数の平均正答率については、全国平均を上回りました。中学校数学においては、全国平均を少し下回りました。府平均とは同値でありました。中学校英語の平均正答率については、全国平均、府平均とともに下回っております。

国語科において「文章を読み理解したことに基づいて自分の考えをまとめる」記述式で答える問題については一定の成果が出ているものの、「文章を読んで知識や経験と結び付け、考えを広げたり深めたりする力（読み取る力）、根拠を明確にし、考えを表現する力（書く力）」の育成が引き続き必要です。

算数・数学科においてすべての領域で、ほぼ全国と同等、もしくは上回る水準でありましたが、「数量や図形についての基礎的な能力」の定着についてはまだまだ課題がみられます。

また、英語科においては、「読むこと」「書くこと」の領域で課題があり、「情報を正確に読み取る力」、「自分の考えを理由とともに書く力」の育成が課題です。

その一方で「話し合いを通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」において、小・中学校ともに数値の改善が見られました。また、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話しの組立てなど工夫して発表している」においては、数値の改善が見られ、全国平均を上回っております。これは、各校で推進している授業改善の取り組みが進んだ成果と考えます。今後も引き続き、児童生徒の基礎学力の定着を図り、学力向上をめざした取り組みを進めてまいります。

日々の学習指導の中で、今回の本市の課題として挙げられる学習活動の中から

「基礎的な知識・技能の定着と活用」

「問題に対し、自らの知識や経験と結び付け考えを深め、根拠をもとに表現する力」

の2つを特に重点をおく学習活動として、1人1台タブレット端末の効果的な活用をふくめ計画的に指導する取り組みを進めていきます。

質問紙調査において、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」について、小学校では、昨年度の数値を上回りましたが、中学校では結果に課題が見られました。今後も道徳教育等、様々な教育活動を通して「いじめは絶対に許されない」という意識が向上するよう取り組みを進めていきます。

また、「自分にはよいところがある」については小・中学校とも、大幅な数値の改善が見られました。今後もキャリア教育等、子どもたちの思いを大切にする活動を進めていきます。

「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」、「『学校の授業以外の読書時間』や『家庭学習の時間』が30分未満である」という項目について小・中学校とも、全国平均を下回っています。今回の結果を受けて、引き続き「家庭学習」の課題を重点として、ご家庭の協力をお願いします。

また、P.10・P.11に、家庭での過ごし方等、参考にしていただける資料及びデジタルドリルを掲載していますので、併せてご参照ください。

学びの場でのタブレット端末等のICT機器の活用が進む中、スマートフォンの所持率も学年と共に上がっていきます。小学校より9年間を見通し、情報機器を活用しながら情報社会で適切な活動を行うためのものとなる考え方や態度を養っていくため、情報モラル教育に関わる取り組みを充実してまいります。P.11に掲載のリーフレット等を参考に、スマートフォンの使用時間等のルール作りについて、子どもたちの適切な睡眠時間を確保できるようご家庭でも話し合ってください。

【P.6より高石市教育委員会・各学校の取組みと、家庭・地域の皆様にご協力いただきたい点をまとめて記載しております。】

教育委員会による学校への指導助言事項

各校に対して、下記の内容について重点的に指導助言を行います。

① 学校全体で調査結果を分析し、課題を見つけ、課題解決の実践

子どもが確かな学力を身につけることができるよう、学校全体で結果分析を行い、学力向上担当者を中心に『授業改善（基礎基本・読解力の定着）』『校内研究体制の確立』『学級づくり・学習規律の確立』『家庭学習の充実』の4つの観点から取組み内容を具体化し全教職員で推進に取り組むこと。また、各校の「学力向上の取組み」について、授業改善PDCAサイクルを確立し、習得した知識・技能を活用する力や言語を用いてまとめたり表現したりする力を育成する学習活動と継続した授業改善に努めること。また、各教科等で学習活動に学校図書の利用を位置づけ、複数の資料から必要な情報を整理するなど、児童生徒の情報活用能力の育成を図るとともに、学校司書との連携を深め読書活動の推進を図ること。

② 校内研究体制の充実、指導力のさらなる向上

大学教授等の外部講師を招聘し、指導助言のもと、学校のめざす子ども像の実現に向け、最新の教育課題や取組みをもとに教職員の資質・向上に努めること。あわせて、指導案作成の際にも指導助言のもと、学校の研究主題、研究仮説が適切に盛り込まれているか、子どもの課題とめざす子ども像を踏まえたものとなっているか等をふまえ、共同で協議・作成する校内体制を構築すること。また、タブレット端末を効果的に活用した授業改善に努めることや他市町村の先進的な実践校等を視察、キャリアステージに応じた研修の参加など教員が探究心を持ちつつ自律的に学ぶこと。

③ 個別最適な学び（基礎基本・読解力の定着）の充実を図る

読解力の向上を図るため、新聞教材を活用したワークシートの取組みを進め、子どもに複数の資料から必要な情報を読み取り、自分の考えとともに表現する力の育成を図ること。また、基礎学力の定着を図るため、タブレット端末を活用したデジタルドリル等の活用を進めること。

放課後に補充的学習機会として実施している「高石っ子学び舎」及び「高石っ子学び舎キッズ」について、授業内容や一人ひとりの学習状況を見極めたうえで、保護者の理解と指導者との連携のもと、子どもたちへの個別の学習支援対策として実施すること。

④ 心の教育の推進

人権尊重の教育を推進するにあたり、教職員が人権尊重の理念を十分に理解し実施できるよう、組織的な研修体制を整備し、人権教育推進のための実践力を身につけること。また、いじめの積極的な認知を行い、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門家との連携を図り、組織的な対応を行うとともに適切な支援を行うこと。

不登校への取組みについて、社会性測定用尺度の結果分析や専門家との連携により、不登校につながる要因を早期に把握し、支援体制の充実を図り、継続的な支援を推進すること。

⑤ PTA、学校評議員会等に調査を公表することから、家庭・地域の協力を促す

自校の学力実態や、生活実態をPTA実行委員会や学校評議員会において具体的に知らせ、改善策について意見を聞きながら、今後の方針を明確にするとともに、家庭や地域を巻き込みながら次代の地域を担う子どもたちを育てていく素地を形成すること。実態についてオープンにすることで積極的に支援してもらおう姿勢を示すこと。

学校での取組み

☆今年度の調査から見える課題を踏まえ、各校が重点的に取り組むことを下記に記載しています。

高石小学校

全国学力・学習状況調査から、本校では、国語科・算数科ともに「思考・判断・表現」の項目に関し、改善が見られた。そのため、児童間での意見の交流を通して自分の考えを表現できる（話す・聞くの両面で）授業づくりの取組みを継続するとともに、さらに文章や問題の文を正しく読み取り、記述問題での正答率を高めることを目的とした全教職員による授業改善の取組みが継続できるよう校内研究体制のより一層の充実を図る。また、高小タイムにおいて読解力・情報活用能力を育成するための取組みの推進を図る。

羽衣小学校

全国学力・学習状況調査から、本校では、文章や資料から必要な情報を読み取り、求められる課題や条件に合った文章を書くことという点に課題が見られた。授業の中で、文章や複数の資料の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したりする活動の設定や、課題の条件に合うように根拠をもとに自分の考えを書く活動を意図的に設定するなど授業改善を行う。あわせて、先進校への視察を行うなど校内研究体制をより充実させる取組みの推進を図る。

高陽小学校

全国学力・学習状況調査から、本校では、国語・算数ともに思考力・判断力・表現力という点に改善が見られた。そのため、教科書教材のみならず、並行読書等を活用し、学びに向き合う子どもの興味関心を広げ、意欲を高め、つけたい力を明確にした子どもにとって必然性のある授業づくりの取組みを継続する。さらにデジタルドリル等を積極的に活用し、子どもの基礎学力の定着ができるよう取組みの推進を図る。

取石小学校

全国学力・学習状況調査から、本校では、基礎・基本の定着とともに、目的に応じて文章や図表から必要な情報を読み取り、与えられた条件をもとに的確に答えるという点に課題が見られた。そのため、基礎・基本の習得とともに、問題文を正確に読み取り、必要な情報を取捨選択する力や、結果から導き出した自分の考えを要約する力の育成をめざし、「デジタルドリルを活用し反復学習を徹底することと、授業の中で文章を読み取り、条件を意識して必要な情報をもとに書く場面を設定すること」について、取組みの推進を図る。

東羽衣小学校

全国学力・学習状況調査から、本校では、情報を取り出し整理する、基礎学力の定着という点に課題が見られた。そのため、文章や話している内容から必要な情報を取り出し自分の考えを整理したり、考えを表したりできる工夫を授業で行うために、先進校の取組みを参考とし、タブレット端末の効果的な活用の研究を行うとともに、学校図書館の活用を図る。また、デジタルドリルの活用を進め、基礎基本の定着を図る学習機会を増やす授業づくりを行うとともに、家庭学習をふくめた取組みの推進を図る。

清高小学校

全国学力・学習状況調査から、本校では、漢字や図形に対しての問題の正答率が低く、基本的な学力の定着と共に問題の趣旨を的確に捉える力や家庭学習への意識に課題が見られた。そのため、他校の授業実践を視察し、本校の授業づくりに生かしていく。また、外部講師からの指導助言に基づいた研究体制の充実とともに、授業スタンダードを作成し全職員が徹底した授業改善を行う。また、基礎学力の定着を図るためデジタルドリル等を授業や家庭学習ともに活用する取組みの推進を図る。

加茂小学校

全国学力・学習状況調査から、本校では、必要な語句を捉え、あきらめずに文章を書くという点に改善が見られた。そのため、説明文の学習（自分の考え・要約・要旨を作成する言語活動）を通して、文章作成能力が向上するよう、授業の中で書く時間を確保する取組みを継続する。さらに物語文の学習（登場人物の性格や行動、気持ちの想像、音読の仕方の工夫など）を通して、すべての教科等の授業の中で、読んで分かったことや事実と、自分の考えを区別して考える活動など、「考える時間」を確保するとともに、主体的に学習に取り組むことができるよう、「目的意識をもって文章や問題文を読む」ことについても、取組みの推進を図る。

高石中学校

全国学力・学習状況調査から、本校では、文章を読み取る、表やグラフから読み取ること・自分の考えを表現したり、要約したりすることに課題が見られた。そのため、校内研修や相互参観授業で教師間の共通認識を持ち、学力向上担当者を中心に効果検証を繰り返し、課題に正対した授業改善に取り組む。また、デジタルドリル・デジタル教材を活用し、確かな基礎学力の定着を図るとともにタブレット端末を効果的に活用することやシンキングツール等を活用することで自分の考えをまとめ他者に伝えていく活動やグループワークを積極的に取り入れていく。また、新聞教材を活用したワークシートを活用し、複数の資料から必要な情報を読み取れる情報活用能力の育成を図ることにより生徒の「考動力」「対話力」「発信力」の育成をめざす取組みを推進する。

高南中学校

全国学力・学習状況調査から、本校では、読み取った文章を、既得の知識や経験と結び付けて、自分の考えを広げたり深めたり、まとめたりすることに課題がみられた。そのため、思考のもととなる基礎・基本の知識の習得の徹底を図るため、授業や家庭学習ともにデジタルドリル等の活用を進める。また、自分の考えと他者の考えを比較・整理し、自分の考えを広げたり深めたりする機会として、ペアワークや、グループワークを授業に積極的に取り入れるため、先進校への視察もふくめ校内の研究内容の充実について、取組みの推進を図る。

取石中学校

全国学力・学習状況調査から、本校では、設問の内容を読み解き、必要な情報から根拠を明確にして自分の考えを書いたり、解答について説明をする記述式の問題に課題が見られた。そのため、「情報を正しく読み取り、自分の考えを表現する力」の育成をめざした授業を行うため、メディアリテラシーを育むとともに、タブレット端末の積極的な活用を図りながら、設問の意図を読み取り、なぜそうなるか自分の考えを書き、生徒自ら説明する場面を多く設定する。また、基礎学力の定着には授業や家庭学習ともにデジタルドリル等を効果的に活用する取組みの推進を図る。

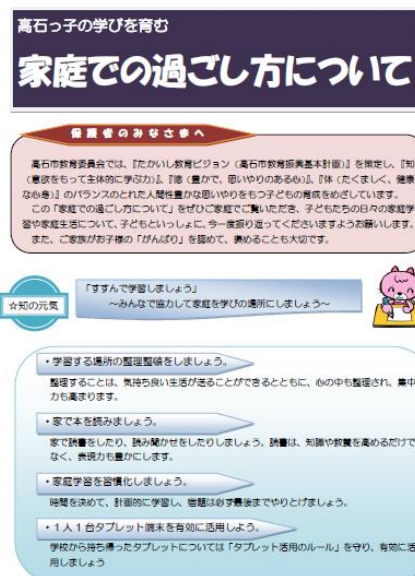
家庭・地域にご協力いただきたいこと

- ◆ 各学校における「家庭学習のてびき」等を参考にいただき、子どもたちの宿題の確認や、学校の予習・復習、デジタルドリルの活用等、自主的な家庭学習に対する意欲向上へのご協力をお願いします。
- ◆ 携帯電話・スマートフォンやゲーム機の使用について、家庭におけるルール作りと、インターネットの危険性について、子どもと話し合ってください、適切な使用とともに十分な睡眠時間が確保できますようお願いいたします。
- ◆ 朝食を摂ることは、効果的に学習に取り組むためにとても重要です。毎日朝食を摂って、朝からしっかり学習活動に取り組めるよう、また、健康な生活が送れるよう引き続きご協力をお願いします。
- ◆ ご家庭における読書の機会設定や子どもたちへの啓発についてご協力をお願いします。
- ◆ 学校のさまざまな学力向上等の取組み（授業支援や図書、放課後学習活動等のボランティア等）についてご協力をお願いします。
- ◆ 「他人を認め、自分を大切にすること（自己肯定感）の大切さをご家庭でもお話していただきますようお願いいたします。
- ◆ 学校のクラスルームやホームページ等をご覧いただき、行事や取組みへのご理解とご協力をお願いします。
- ◆ 各中学校区の「すこやかネット」の活動へのご参加とご協力をお願いします。

参考資料及びワークシート

◆高石っ子の学びを育む家庭での過ごし方について (高石市教育委員会から配布)

○小学校1年生から中学校3年生までの
家庭学習を行う際にヒントとなるポイント
等についてまとめたリーフレットです。



◆学べるリンク (子どものためのページ) (大阪府教育委員会が配信)

○小・中学校全学年の児童生徒が、放課後学習や家庭学習において
自主的に学習することができる教材です。
各学校でも活用しています。

HPアドレス

https://www.osaka-c.ed.jp/category/forteacher/forstudent_top.html

◆デジタルドリル

1人1台に配備されたタブレット端末には、個別学習に最適なツール「ドリルパーク」等が入っています。積極的に活用してください。

ご家庭で学校から配布されているタブレット端末を活用する際は、学校から配布されている「タブレット活用のルール」を読んでいただき、安心・安全・快適に活用してください。

令和5年度版 高石市立小・中学校
『タブレットchromebook(クロームブック)活用のルール』

児童生徒のみならずへ
学習内容をよく理解し、より豊かな学びをしていくために、タブレットを上手に活用していくことが大切です。タブレットはみなさんの学習に役立つための道具です。便利な道具ですが、使い方を間違えれば、破損したりトラブルの原因になります。そのため、高石市教育委員会は「タブレット活用のルール」を定めました。全員でこのルールを守り、タブレットを「安心・安全・快適」に活用していきましょう。
※おうちのひとといっしょにルールのかくにんをしましょう

1. タブレットを使う目的
● 学校で貸し出すタブレットは、学習活動のために使うことが目的です。ゲームなど、学習活動に関わること以外に使ってはけません。

2. 使用する時の注意

① 共通の注意

- 学校と家庭、先生の指示がある場所以外では使用しません。
- 登下校中は、タブレットをかばんから出しません。
- 持ったまま走ったり、地面に置いたりしません。
- かばんの下に置いたり、かばんの底に入れたりしません。
- タブレットが入ったかばんを放り投げたりしません。
- 水をかけたり、湿気の多いところで使ったりはしません。また、日光が直接当たる場所やストーブ等暖房器具の近くなどには置きません。
- タブレットの画面は指やタッチペンで触れるようにします。鉛筆やペンで触れたり、落書きをしたり、磁石を近づけるなどは絶対していません。
- なくしたり、ぬすまれたり、落としたり、こぼしたりしないように十分に気をつけます。
- タブレットを使用するときは、正しい姿勢で、画面に近づきすぎないように気をつけます。
- 30分に一度は遠く景色を見るなど、ときどき目を休ませます。

② 学校で使うときの注意

- 学校でタブレットを使うときは、先生の指示をよく聞きます。
- 休み時間や放課後は、先生が認めた時だけ使います。また、先生が認めたこと以外に使いません。

③ 家庭で使うときの注意

- 使用する時間は家の人とよく話し合い、長時間使用せず細かく休めながら使います。
- 就寝する30分前は使いません。
- 自宅に持ち帰った後に学校へ持ってくるときは、自宅まで十分に充電しておきます。
- 自宅のパソコンとタブレットは、絶対に接続しません。

3. 安全な使い方

- 学習に関係ないウェブサイトにはアクセスしません。インターネット接続記録が残りますので、注意してください。この記録は、学校や教育委員会から確認することができます。
- インターネットには制限がかけられていますが、もしもあやしいサイトに入ってしまったときはすぐに画面を閉じ、先生や家の人に知らせます。

4. カメラでの撮影

- 先生が許可した時以外はカメラを使いません。
- 先生の許可があっても、カメラで誰かを撮影したり、人の家や持ち物などを撮影したりするときは勝手に撮影せず、必ず撮影する相手の許可をもらいます。

5. データの保存

- 学校のタブレットで作ったデータやインターネットから取り込んだデータ(写真や動画など)は、学習活動で先生が許可したものでなければなりません。保存した内容は、学校や教育委員会から確認することができます。

6. 設定の変更

- 先生や修理する人が使いにくくなるので、タブレットのデスクトップのアイコンの並び方や位置など、タブレットの設定は、勝手に変更しません。
- タブレットには、今入っているもの以外のアプリケーションを入れません。また、今入っているアプリケーションを勝手に削除しません。

7. 保管

- 学校での保管は、先生の指示に従います。
- 家庭で保管するときは、家の人の目の届くところに置いておきます。

8. 個人情報等

- 自分のタブレットを他人に貸したり、使わせたりしません。
- 他人のIDやパスワード(QRコード)を勝手に使ってはけません。
- 自分や他人の個人情報(名前や住所、電話番号など)はインターネット上に絶対に上げません。
- 相手を傷つけたり、いやな思いをさせたりすることを絶対に書き込みません。

保護者の方へのお願い事項

※この「高石市立小・中学校『タブレット活用のルール』」をお子さまといっしょにお読みいただき、安心・安全・快適に使用できるように、ご協力をお願いいたします。

- 学校から配布されるタブレットは貸与ですので大切に扱っていただけるようお願いいたします。
- 転送学時、卒業時にはタブレットを学校へ返却してください。
- 春休みにはタブレットのメンテナンスのために、家庭には持ち帰らず学校の保管庫に収納し、連絡した学年で再度配布します。
- 故障・破損・紛失してしまったら、すみやかに学校へ連絡してください。故意に故障・破損・紛失した場合は、弁償していただくことがあります。
- 故意に、設定変更をするなどしてタブレットに不具合が生じた場合は、もとに戻すための作業にかかる費用を家庭で負担していただくことがあります。

◆ケータイ・スマホの使い方について
(高石市教育委員会から配布)

○ケータイ・スマホ使用の家庭でのルールづくり・学校への持ち込み禁止等、使い方についてまとめたリーフレットです。

保護者の皆様 高石市教育委員会

「高石市立小中学校内での「スマホ等」の取り扱いについて」
★学校への児童・生徒の「スマホ等」の持ち込みは原則禁止です。

家庭と同様に、ルールを決めずに学校に「スマホ等」を持ち込むことは、様々なトラブルにつながります。学校への「スマホ等」の持ち込みについては、**学校、保護者、児童生徒が一体となって、相互に理解しあえる一定のルールづくりが必要と考えます。**そのため、今後、関係する方々のご意見や国の情勢等をふまえ、検討を重ねて慎重に対応する必要がありますので、高石市教育委員会では、引き続き「スマホ等」の学校への持ち込みを原則禁止といたします。

保護者の皆様のご理解とご協力が必要です。

ご家庭におかれましても、子どもが「スマホ等」を使用する際には、家庭内で必ずルールを作るなど、持たせる責任者としての責務を果たしましょう。

学校への「スマホ等」の持ち込みは原則禁止です

「スマホ等」の使用状況について

タブレット端末や携帯電話・スマートフォン等の情報機器(以下「スマホ等」と表記)は、上手に使うと私たちの日常生活や仕事に役立つ、便利な道具です。

しかし、「スマホ等」を子どもたちが持つことで、子どもたちの世界が大きく変わり、様々なトラブルに巻き込まれるケースが発生しています。

また、長時間の使用により学習時間及び睡眠時間が減少し学力の低下につながることも心配されています。

実際、アンケート結果から、スマホ所持率は、学年が上がるにつれ増加し、小学6年生から中学1年生で大幅に増加します。また、所持率の増加に伴い、3時間以上インターネットを接続する割合も増加します。

スマホやゲームなどのインターネットを接続する機器を使う際は、「スクリーンタイム」等を使って時間制限を設けることや、有害サイトは閲覧できないよう「フィルタリング設定」を行う等のルール作りをして適切に使用することが大切です。しかし、保護者とのルールを決めている子どもは学年が上がるにつれて減少する傾向があります。

情報モラル教育は、家庭での取組みが大切です。子どもに要求される、むやみに買い与えるのではなく、使用目的や危険性、ルールやマナーについて、各家庭において話し合い、保護者として心配していることや気をつけてほしいことをしっかりと伝えてください。現在の「スマホ等」は、電話や連絡を取る機能のみならず「インターネット端末」でもあることをふまえ、子どもに持たせる必要性をよく考えていただきますようお願いいたします。

スマホ所持率

学年	所持率
小1	23%
小2	29%
小3	43%
小4	50%
小5	63%
小6	82%
中1	89%
中2	92%
中3	92%

ネット接続1日3時間以上

学年	接続率
小1	14%
小2	14%
小3	20%
小4	30%
小5	41%
小6	50%
中1	60%
中2	69%
中3	71%

ネットの危険性について親子で話し合っていますか?

学年	話し合っています	話し合っていない
小1	10%	90%
小2	15%	85%
小3	20%	80%
小4	25%	75%
小5	30%	70%
小6	35%	65%
中1	40%	60%
中2	45%	55%
中3	50%	50%

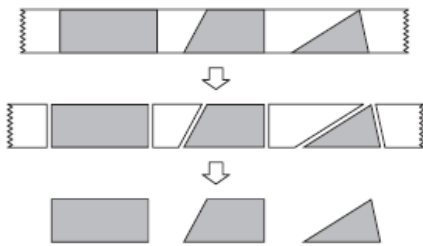
令和5年4月
高石市教育委員会

2

えいたさんたちは、テープを持っています。テープの上の直線と下の直線は平行で、テープのはばはどれも等しくなっています。



えいたさんたちは、下のようにテープを直線で切って、いろいろな図形を作りました。



切り方によって、いろいろな図形ができますね。

(1) ゆいなさんは、下のようにテープを直線で切って、①、②、③、④のような四角形を作りました。



①、②、③、④について、どのような四角形なのかを、次のようにまごめします。

①、②、③、④はどれも ① です。なぜなら、① だからです。

上の①にあてはまるものを、下の 1 から 5 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。また、上の②にあてはまるものを、下の 6 から 10 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 長方形
- 2 正方形
- ③ 3 台形
- 4 平行四辺形
- 5 ひし形
- 6 向かい合った2組の辺が平行な四角形
- 7 向かい合った1組の辺が平行な四角形
- 8 4つの辺の長さが等しい四角形
- 9 向かい合った辺の長さが等しい四角形
- 10 向かい合った角の大きさが等しい四角形

(2) えいたさんたちは、テープの上の直線に垂直な直線で切って、四角形を作ります。

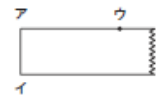
まず、えいたさんは、下のような作り方で四角形を作りました。

【えいたさんの作り方】

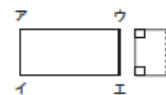
① 上の直線に垂直な直線アイで切ります。



② 点ウの印を右の図のようにつけます。



③ 点ウを透って、上の直線に垂直な直線ウエで切ると、四角形アイエウができました。



上の作り方でできた四角形アイエウは、4つの角がすべて直角になっているから、長方形ですね。

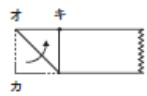
次に、ゆいなさんは、下のような作り方で四角形を作りました。

【ゆいなさんの作り方】

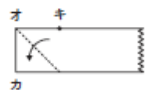
① 上の直線に垂直な直線オカで切ります。



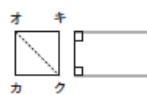
② 右の図のように、直線オカが上の直線に重なるように折り、点カが重なったところを点キとし、印をつけます。



③ 折ったものをもどします。



④ 点キを透って、上の直線に垂直な直線キクで切ると、四角形オカクキができました。

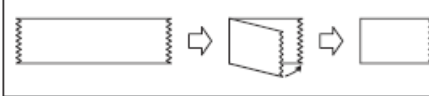


上の作り方でできた四角形オカクキは、どのような四角形ですか。その四角形の名前を書きましょう。

(3) えいたさんたちは、下のような作り方で三角形を作ります。

【えいたさんの作り方】

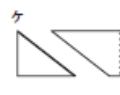
① 下の図のように、テープを折って、下の直線が重なるようにします。



② 右の図のように、折り目のはしを点ケとします。



③ 折って重ねたまま、点ケを通るななめの直線で切ります。



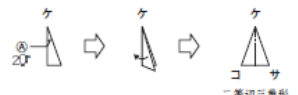
④ 開くと三角形ができました。



ゆいなさんとわたるさんは、【えいたさんの作り方】の③の図で、下の④の角の大きさをそれぞれがう大きさにしました。



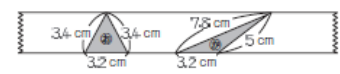
私は、④の角の大きさを20°にしました。切った三角形ケコサは、二等辺三角形になりました。



私は、切った三角形を正三角形にするために、④の角の大きさをゆいなさんと同じ大きさにして切りました。

切った三角形を正三角形にするには、④の角の大きさを何度にするべきですか。答えを書きましょう。

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような⑤と⑥の2つの三角形を作ります。



上の⑤と⑥の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んでおける、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ⑤の面積のほうが大きい。
- 2 ⑥の面積のほうが大きい。
- 3 ⑤と⑥の面積は等しい。
- 4 ⑤と⑥の面積は、このままでは比べることができない。

解説 領域「図形」に関する問題 2(4)

図形の構成の仕方を観察して図形について判断することが問われる問題です。

高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみることに課題があります。

- ③ 山田さんは、国語の時間に、言葉に関して興味をもったことをレポートにまとめています。次は、山田さんが書いているレポートの「下書きの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。
- 二 線部のひらがなを漢字に直し、横書きでいねいに書きなさい。
- 三 山田さんは、**■**「判じ絵」とは何か」と見出しを付けた文章を内容のままとりて二つに分け、後半のままとりては分けた内容とどう見出しを付けることにしました。分ける箇所として最も適切なものを、(ア)から(オ)までの中から一つ選びなさい。また、後半のままとりてに行ける見出しを考えて書きなさい。
- 一 山田さんは、「1. はじめに」の**もも**線部「もち」を「もったため」に直すことにしました。その意図として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 「判じ絵」を知ったきっかけを明確にしようとした。
 - 2 「判じ絵」が現代に伝わった理由を明確にしようとした。
 - 3 「判じ絵」に興味をもったきっかけを明確にしようとした。
 - 4 「判じ絵」を調べることになった理由を明確にしようとした。

「判じ絵」について

山田 光一

1. はじめに
学校図書館の本で、「判じ絵」というものがあることを知った。「判じ絵」には具体的にどのようなものがあるのか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもた、詳しく調べることにした。

2. 調査方法
学校図書館、地域の図書館、インターネットで情報を集めた。

3. 調査結果

■「判じ絵」とは何か
「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何の意味しているかを解読して楽しむものである。**【図1】**ザルと意味しているものが異なるため、解読する際には、「判じる」こと、つまり、知っていることをもとに「おしえて考える」ことが必要になる。(イ) 言ってみれば、なぜなぞやクイズのようなものである。(ウ) また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ) そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。(オ) さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることが出来る。

■「判じ絵」の解読の面白さ
「判じ絵」の解読の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。**【図2】**は、鈴の絵に目が描かれている。描かれているものを組み合わせて解読すると、鳥の「スズメ」という意味になる。

一見
サル

【図1】ザル

鈴
目

【図2】スズメ

【図3】は、

【図3】

〈候補〉

Ⓐ ⓐ ← 選んだ〈候補〉の記号を塗りつぶしなさい。

【図3】は、

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

A (候補)



B



四 山田さんは、**■**「判じ絵」の解読の面白さに**【図3】**としても一つ具体例を示して、解読の仕方を説明しようとしています。あなたなら、どのように書きますか。次の〈候補〉のA、Bから一つ選び、どちらの〈候補〉を選んでかまいません。二回③は①に続けて、**【図2】**の説明の仕方を見ながら参考にして書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

解説 領域「書くこと」に関する問題 ③-四

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかを問われている問題です。伝えたい自分の考えを明らかにし、考えを支える根拠を明確にし、書くこと課題があります。

⑧ 大悟さんが住む地域にある新緑大学は、大学対抗駅伝大会に出場します。この駅伝大会では、コースを7区間に分け、1区から7区までをリレー形式で走ります。大悟さんは、新緑大学の6区の選手の応援に行きました。6区の道のりは12000 mあり、6区のスタート地点では、晴天大学が先にスタートし、新緑大学がその100秒後にスタートしました。



大悟さんは、インターネットで6区の高報を見て、新緑大学が晴天大学に追いつきそうだと考え、その地点を予想することになりました。

順位	記録	大学
○	○分○秒	晴天大学
○	○分○秒	新緑大学



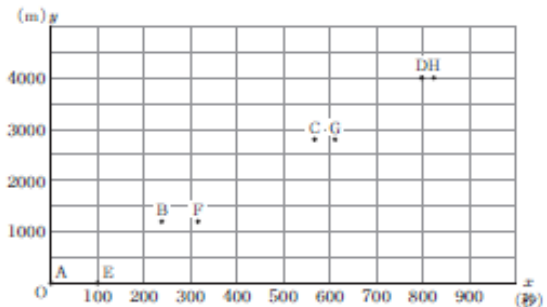
そこで、大悟さんは、晴天大学と新緑大学の6区の各地点の記録を、晴天大学の6区の選手がスタートしたときを0秒として、下のような表にまとめました。

大悟さんがまとめた表

地点	スタート地点からの道のり	晴天大学	新緑大学
スタート地点	0 m	0 秒	100 秒
図書館前	1200 m	238 秒	316 秒
郵便局前	2800 m	567 秒	611 秒
駅前	4000 m	798 秒	824 秒

前ページの大悟さんがまとめた表の記録について、例えば、新緑大学の「316秒」は、晴天大学がスタート地点をスタートしてから316秒後に、新緑大学が図書館前を通過したことを表しています。大悟さんは、晴天大学の6区の選手がスタートしてからの時間を x 秒、6区の選手が走った道のりを y mとし、前ページの大悟さんがまとめた表をもとに下のようなグラフに表しました。点Aから点Dが晴天大学、点Eから点Hが新緑大学を表しています。

6区の選手の記録のグラフ

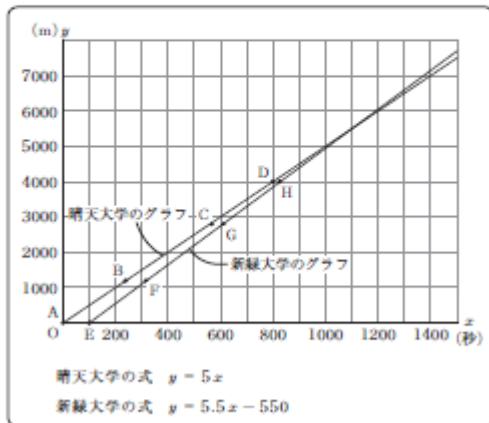


次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。

- (1) 晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差は、上の6区の選手の記録のグラフに表された点Aから点Hのうち、2つの点の x 座標の差に表れます。点Aから点Hまでの中から、その2つの点を選んで書きなさい。

- (2) 大悟さんは、前ページの6区の選手の記録のグラフを見て、点Aから点Dまで、点Eから点Hまでの各点がそれぞれ一直線上にあると考えることにしました。そこで、コンピュータを使って、次のような2つの直線に表したところ、それぞれの x と y の関係を表す式は、晴天大学が $y = 5x$ 、新緑大学が $y = 5.5x - 550$ と表されました。

コンピュータを使って表された直線のグラフと式



晴天大学のグラフと新緑大学のグラフがそれぞれ直線で表されていることは、二人の選手について次のように考えたことになります。

晴天大学のグラフと新緑大学のグラフがそれぞれ直線で表されていることは、二人の選手について、が一定であると考えたことになります。

上のに当てはまる言葉として正しいものを、下のAからオまでの中から1つ選びなさい。

- A それぞれの走る速さ
- イ それぞれの走る時間
- ウ それぞれの走る道のり
- エ 走る時間の差
- オ 走る道のりの差

- (3) 新緑大学が晴天大学に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるのかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いておよそ何mの地点になるのかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何mかを求める必要はありません。

- ア 晴天大学のグラフと新緑大学のグラフ
- イ 晴天大学の式と新緑大学の式

解説 領域「関数」に関する問題 ⑧(1)(3)

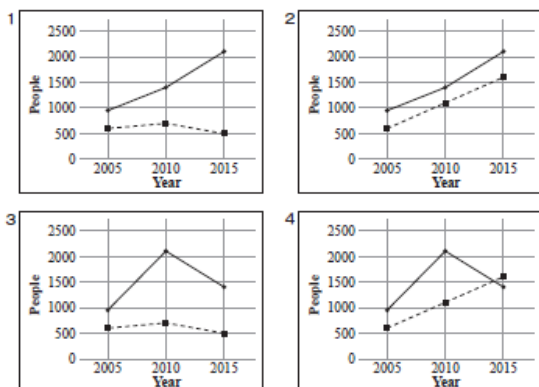
- (1) 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる問題です。
 (3) 事象を数学的に解釈し、問題解決を数学的に説明することができるかをみる問題です。
 情報の正確な読み取りや数学的に説明することに課題があります。

5

(1) 次の英文を読んで、その内容を最も適切に表しているグラフを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

In 2005, about 1,000 tourists from abroad came to Minami City. During the next ten years, the number went up. Over 2,000 tourists came to Minami City in 2015. The number of tourists from Minami City to other countries didn't go up.


— : Tourists from abroad to Minami City
 - - - : Tourists from Minami City to other countries



(2) 次の英文には、事実や考えが書かれています。考えが書かれている英文を、下線部1から4までの中から1つ選びなさい。

There is a mountain in our city. It is 815 meters high. I went there
 1 2
this summer with my family. I saw a lot of garbage. I was surprised to
 see it. We cleaned the place for about 30 minutes. Everyone should
 3 4
bring their garbage back home.

8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問に答えなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I  could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?

(1) ブラウン先生が最も伝えたいことを、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 We see many kinds of robots around us.
- 2 I saw a robot and it was working as a guide.
- 3 People will have fun if they live with robot pets.
- 4 Robots can change many people's lives for the better.

(2) ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

(注) plate: 皿 even if ~: たとえ~だとしても
 apartment: アパート agree with: ~に賛成する

解説 領域「読むこと」に関する問題5-(1)(2) 領域「書くこと」に関する問題8-(2)

5-(1)(2)は情報を正確に読み取ることができるか、「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかをみる問題です。

8-(2)は社会的な話題に関して読んだことについて、考えやその理由を書くことができるかどうかをみる問題です。情報を正確に読み取ることや自分の考えやその理由となる根拠を書くことに課題があります。